

技術研究所70年 ～今を拓き、未来を築く力～

戦後間もない1949年4月、鹿島守之助社長（当時）が「不断の研究と創造が社会に進歩と繁栄をもたらす」との理念から鹿島技術研究所を設立しました。今から70年前のことです。当時、民間唯一の建設技術に関する研究機関であった「財団法人建設技術研究所」から研究員や研究施設の主だった部分を承継し、当社の技術陣を加えて発足しました。建設業界初の技術研究所であり、今日に至るまで建設に関する研究技術開発（R&D）の中心を担い、豊かで安全な国土の建設と社会発展に寄与し続けています。

当社は、1840年の創業以来、「進取の精神」のもと、「技術」と「人材」を中核に、建設事業を通じて産業、経済の発展に貢献してきました。当社技術研究所は設立以来、常に未来を見据えながら、超高層ビル、原子

力発電所、長大橋梁、大深度トンネルなど、日本では初となる構造物やインフラを実現するためにR&D分野で数多くの挑戦を続け、鹿島グループ全体の技術基盤を支えてきています。

現在、建設業界にとって最大の課題は、技能労働者不足と将来の担い手確保です。これらに対応するため「生産性の向上」を目指し、「現場の工場化」や「鹿島スマート生産」の実現を目標として、2025年までに機械化、自動化、スマート化を進めていきます。具体的には、2017年に技術研究所が開設した西湘実験フィールドにおいて、建設重機の無人自動化運転の実証を進めるとともに、スマート生産チームを設置して、デジタル化、スマート化に特化したR&Dを精力的におこなっています。

グローバル化や多様化は、R&Dにおいても重要なキーワードになっています。技術研究所では、2013年にシンガポールオフィス「KaTRIS」を設置。大学や政府機関、現地企業など様々なパートナーとのネットワーク構築と共同研究を進めています。世界から最新技術情報と高度人材が集まるシンガポールで、価値を最大化するR&Dに取り組んでいく考えです。顧客から求められる価値も、モノからコトへ、ハードからソフトへと大きく潮流が変わるなか、単体技術から総合的



技術研究所（1949年）



現在の技術研究所（研究棟）

なビジネスモデルを構築していく必要性があり、オープンイノベーションを積極的に進めています。技術研究所内にAI×ICTラボを設置し、外部機関とともに、従来技術とIoT、AI、ロボットなどの先端デジタル技術の高度な融合を目指しています。また、生産性向上や環境、サステナビリティなどの世界共通の課題を解決するために、国連が定めたSDGs※を達成することも重視しており、当社グループが今年度策定した7つの

重点課題（マテリアリティ）への対応にも積極的に取り組んでおります。

これまで歩んできた歴史を見つめながら、今を拓き、未来を築く力で、これからもお客様や社会に信頼され、持続的に成長できる社会を目指してR&Dを推進していきます。

※SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)

